

1 都立高等学校の入試の仕組み

都立高校の入試は、推薦に基づく入試（推薦入試）と学力検査に基づく入試（第一次募集・第二次募集・分割募集）があります。

なお、学力検査によらない入試を行う学校もあります。

推薦に基づく入試（推薦入試）

- 推薦に基づく入試の目的は、以下のとおりです。

基礎的な学力を前提に、思考力、判断力、表現力等の課題を解決するための力や、自分の考えを相手に的確に伝えるとともに、相手の考えを的確に捉え人間関係を構築するためのコミュニケーション能力など、これからの社会にあって生徒たちに必要となる力を評価し、選抜する。

- 推薦に基づく入試は、主に都立高校全日制課程で実施します。対象となるのは、以下の二つの条件を満たす生徒です。

- (1) 平成27年12月31日現在、都内在住で、都内の中学校に在学していて、入学後も引き続き都内に在住し、平成28年3月に都内の中学校を卒業する見込みの生徒
- (2) 志願する都立高校を第1志望とする生徒

- 推薦に基づく入試には、以下の2種類があります。

(1) 一般推薦

一般推薦に志願する意思があり、在学している中学校長の推薦を受けた生徒が応募できます。

(2) 文化・スポーツ等特別推薦

文化・スポーツ等特別推薦に志願する意思があり、在学している中学校長の推薦を受けた生徒が応募できます。

文化・スポーツ等特別推薦の募集人員は、一般推薦の内数としますが、実施する学校と実施しない学校があります。

- 検査は、集団討論、個人面接、小論文又は作文、実技検査、その他学校が設定する検査を組み合わせで実施します。

集団討論と個人面接は、原則として全ての学校で実施します。また、小論文又は作文、実技検査、その他学校が設定する検査は、それらの中から各学校が一つ以上を選んで実施します。

集団討論、個人面接、小論文又は作文、実技検査、その他学校が設定する検査の内容については、各学校で定めます。

- 選考は、調査書点のほか、集団討論及び個人面接、小論文又は作文、実技検査、その他学校が設定する検査の各点数を総合した成績で行います。

調査書点	集団討論・個人面接点（※1）	小論文又は作文点（※2）	実技検査点（※2）	その他学校が設定する検査の点数（※2）
総合成績				

（※1）集団討論を実施しない学校もあります。

（※2）小論文又は作文、実技検査、その他学校が設定する検査の中から、各学校が一つ以上を選んで実施します。

- 各学校の募集人員に占める推薦入試の募集人員の割合については、11月上旬に発行予定の「平成28年度東京都立高等学校募集案内」で確認してください。

学力検査に基づく入試（第一次募集・第二次募集・分割募集）

学力検査に基づく入試では、第一次募集の結果、入学手続人員が募集人員に達しない学校が、第二次募集を行います。また、都立高校には、あらかじめ募集人員を分割し、第一次募集期間における募集（分割前期募集）と第二次募集期間における募集（分割後期募集）の2回に分けて募集を行う学校があります。

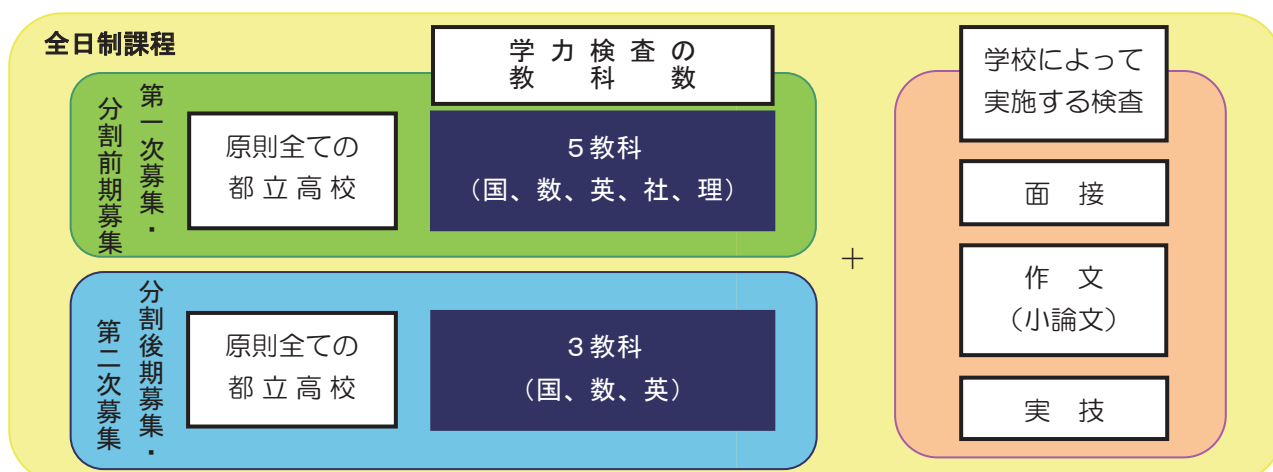
平成28年度入試から、皆さんが、中学校で身に付けた各教科の「基礎的・基本的な知識・技能」や「それらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等」を的確に評価して選抜することを目的とし、皆さんにとってより分かりやすくなるように、入試制度を改善します。

ここでは、どのように改善するのかについて、お知らせします。

学校ごとの選抜の方法や検査方法等の詳細は9月中旬に決定し、東京都教育委員会のホームページに掲載します（東京都教育委員会のホームページのURLは、この冊子の裏表紙を御覧ください。）。

なお、詳しい内容は、11月上旬に発行予定の「平成28年度東京都立高等学校募集案内」に掲載します。

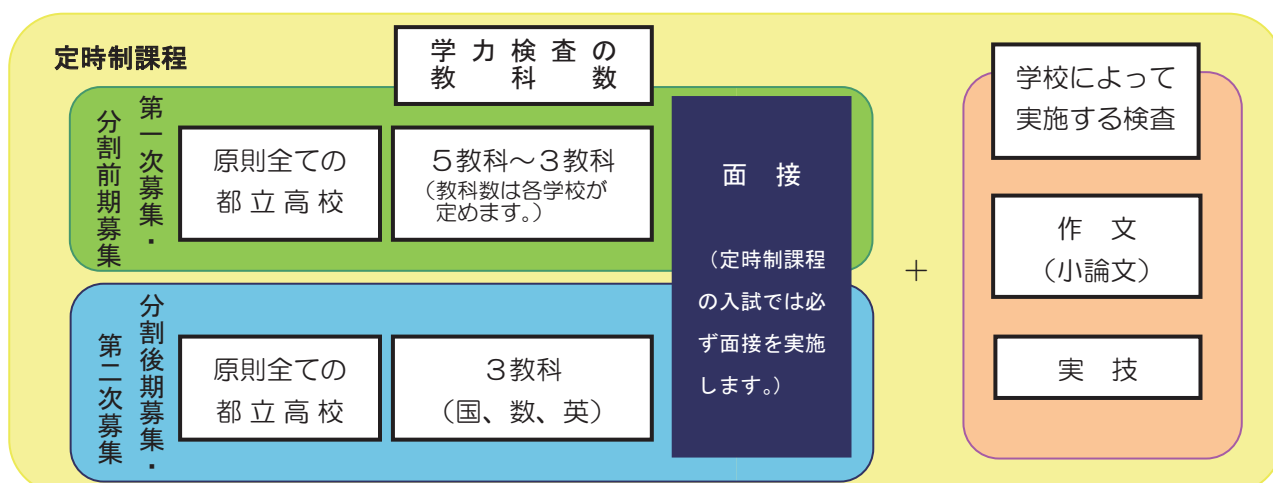
- 受検教科は、全日制課程の第一次募集・分割前期募集では、原則として、国語、数学、英語、社会、理科の5教科を実施します（ただし、芸術及び体育に関する学科については、これに当てはまらない場合があります。）。また、分割後期募集・第二次募集では、原則、国語、数学、英語の3教科を実施します。なお、学校によっては、学力検査に加え、面接、作文又は小論文、実技検査を実施する場合があります。



定時制課程の第一次募集・分割前期募集では、原則として、国語、数学、英語、社会、理科の5教科の中から3教科以上を実施します（どの教科を実施するかについては、各学校が定めます。）。また、分割後期募集・第二次募集では、原則、国語、数学、英語の3教科を実施します。

なお、定時制課程では、第一次募集・分割前期募集、分割後期募集・第二次募集のどちらにおいても、面接を必ず実施します。

学校によっては、学力検査に加え、面接、作文又は小論文、実技検査を実施する場合があります。

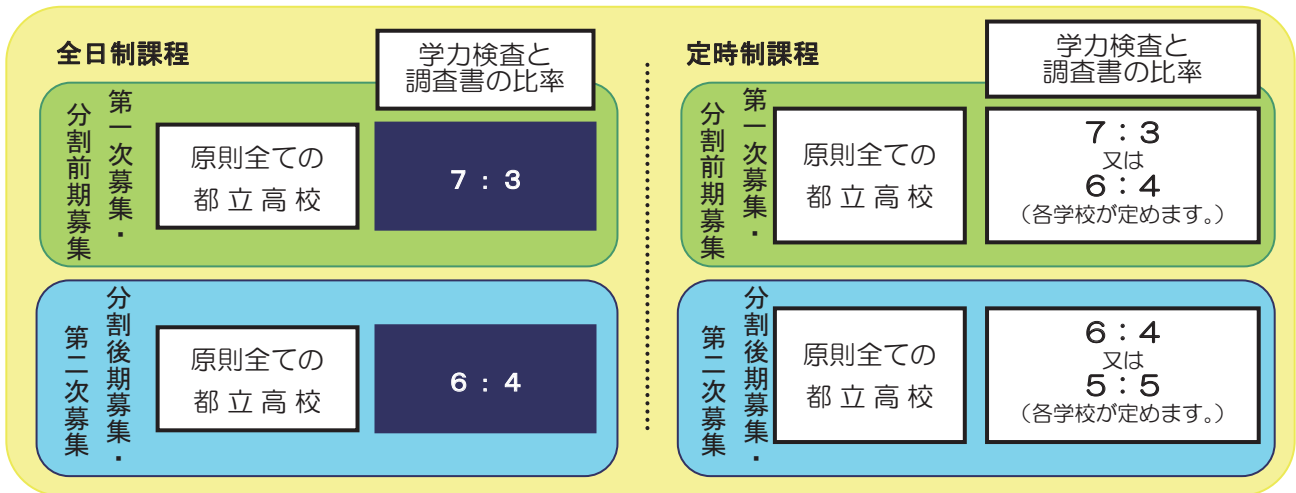


- 選考は、学力検査の得点及び調査書点のほか、面接、小論文又は作文、実技検査を実施する学校では、これらの点数を総合した成績で行います。

学力検査の 得点	調査書点	面接点 (※)	小論文又は 作文点 (※)	実技検査点 (※)
総合得点				
総合成績				

(※) 面接、小論文又は作文、実技検査を実施しない学校もあります。

- 学力検査の得点と調査書点との比率は、全日制課程の第一次募集・分割前期募集では、原則として、7：3、分割後期募集・第二次募集では、原則、6：4になります（ただし、芸術及び体育に関する学科については、これに当てはまらない場合があります。）。また、定時制課程の第一次募集・分割前期募集では、原則として、7：3又は6：4のどちらかを各学校が定め、分割後期募集・第二次募集では、原則、6：4又は5：5のどちらかを各学校が定めます。



- 調査書点は、学力検査を5教科実施した場合に、学力検査を実施しない実技4教科について、評定を2倍して、点数化します。

実技4教科の評定の合計 × 2

(点数化の方法)

調査書の評定

国語	数学	外国語 (英語)	社会	理科	音楽	美術	保健体育	技術・家庭
5	3	5	4	3	3	4	5	3

実技4教科の評定の合計を2倍すると、

$(3+4+5+3) \times 2 = 30$ 点 (全教科5の場合は40点)

これに実技教科以外の5教科(国、数、英、社、理)の評定を足すと、

$5+3+5+4+3+30 = 50$ 点 (全教科5の場合は65点)

学力検査の得点と調査書点の比率が7：3の場合、総合得点の満点は1000点のため、

調査書点の満点は、300点となるから、

調査書点は、 $50 \text{点} \times 300 \div 65 = 230$ 点 (小数点以下切り捨て) になります。

- 面接、小論文又は作文、実技検査の満点は、各学校で定めます。
- 「男女別定員制の緩和」、「傾斜配点」、「学力検査問題のグループ又は自校による作成」、「学力検査によらない入試」といった、特色ある入試を実施する学校もあります（40～45ページのQ&A参照）。

学力検査によらない入試

- チャレンジスクール（21ページ参照）では、学力検査を実施しません。また、調査書を用いずに選考を行います。
- エンカレッジスクール（22ページ参照）では、学力検査を実施しません。

